

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

今村 光章
(岐阜大学)

要約

本論文の目的は、幼稚園における帰りの会の場面がどのような構成と内容になっているのか、学年別に実証的に考察することである。副次的な目的は、1 学期（5 月）と 2 学期（11 月）の帰りの会の変化を把握することである。これら二つの目的を達成するために、年少児・年中児・年長児それぞれ 3 クラス（合計 9 クラス）の 5 月時点と 11 月時点の帰りの会の場面構成を VTR で撮影し、保育者の発話内容を記録し、分析した。その結果、まず、①5 月の帰りの会では、年少児よりも年中児・年長児のほうが場面構成の数が少なくなること、また、②11 月の帰りの会では、どの学年においてもルーティーンがほぼ決まること、および、年少児の姿勢指導の場面が 5 月に比べて少なくなったこと、さらに、③明日の予定や振り返りの場面が、5 月でも 11 月でも、また、どのクラスでもほぼ見られること、以上の 3 点が明らかになった。

キーワード：幼稚園 帰りの会 場面 保育の連続性

1. 研究の背景及び目的

本論文の主たる目的は、幼稚園における「帰りの会」の「場面」がどのような内容で構成されているのかについて、クラス別や学年別に実証的に考察することである。副次的な目的は、1 学期（5 月）と 2 学期（11 月）の帰りの会の変化をとらえることである。

本稿で研究対象とする「帰りの会」とは、幼稚園で幼児が降園する直前に、クラスの幼児全員が参加し、多くの場合、保育者（本論文の研究対象は幼稚園教諭であるが、保育所保育士を含め広い意味で保育者と記す。引用等では幼稚園教諭と記す）が主導する形式で 15 分程度行われる集会のことを指す。名称は園によって異なるが、ここでは「帰りの会」と記し、以下では括弧なしで用いる。また、研究対象とした幼稚園に就園している満 3 歳から小学校就学前の 6 歳までの未就学の子どもを幼児と表記し、子ども（0-6 歳児）に関する一般論や引用等においては、子供と表記する。

通常、幼稚園では降園直前に帰りの会と呼ばれる集会が開催される。帰りの会では、保育者から幼児に対して一日の振り返りが促されたり、次の日の予定の連絡があったり、歌を歌ったり手遊びや簡単なゲームをしたりする。絵本の読み聞かせ、紙芝居、素話などが実施されることもある。その形態や時間は保育者によって非常に多様である。それぞれの幼稚園で帰りの会の実施方法が大枠で定められていることがあるが、その場合でも、個々の保育者によって帰りの会の内容と方法は異なる。さらに、学年別や年度のはじめと途中、そして終わりに近づくにつれて帰りの会の内容も変化してくる。

一般的に、帰りの会は区切りが比較的明確ないくつかの「場面」によって構成される。本論文で研究対象とする帰りの会の「場面」とは、ある程度の意味や内容のまとまりをもった一区切りの時間帯である。その長さは数秒程度から数分程度で非常に短い。場面の開始時間と終了時間について正確に線引きをすることはできない。しかしながら、保育者が目的別に切り替える「場面」——つまりは時間——設定をしていると考えられる。「場面」という名称については異論があるかもしれないが、以下では帰りの会のひとまとまりの時間を「場面」と記し括弧なしで用いる。本論文では、この場面を研究の対象とする。以下では、帰りの会の場面構成の実証的研究を通じて、保育者がどのように帰りの

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

会を実施しているのかを明らかにし、幼稚園教育における帰りの会を充実させる手掛かりのひとつとしたい。

さて、ここで帰りの会の歴史と意義についてごく簡単に概観しておこう。

帰りの会のみならず、幼児にとって集まることには大きな意味がある。幼児が集団になることの歴史は古い。三吉愛子（2018）は、朝の会（お集まり）が幼稚園生活の一日の始まりとして幼児にとって重要な役割を担う時間であることを指摘し、東京女子師範学校附属幼稚園の明治期中頃までの歴史と先行研究を踏まえて、次の4つのことを明らかにした。まず、朝会が宗教集団と軍隊に起源を持っていること、次に、大正期には朝会の実施率が極めて低かったこと、さらに、その後全国の幼稚園に浸透し変容をとげてきたこと、最後に、幼稚園の朝会と小学校の朝会とは位置づけが異なり、「幼稚園独自の文化としての位置づけ」が確立されたことである。このように、三吉は幼児にとって集まる時間が用意されていたことを歴史的に検証している。

幼稚園教育において集まることの重要性については論を俟たない。なかでも帰りの会はほとんどの園で実施している活動である。比較的重要な教育活動に位置付けられていると言って差し支えない。そのため、帰りの会についてはさまざまな研究がされてきた。以下ではそれらの先行研究を概観してみよう。

横山文樹（2010）は、帰りの会を研究対象として、幼児が集合することについて調査研究をしている。そのなかで横山は保育の連続性を担保する目的意識で保育者が帰りの会を構成していることを指摘している。朝の会が、点呼や挨拶、幼稚園教諭からの談話が中心になっているのに対し、帰りの会はその日の振り返りや明日の予定を中心としている。保育の連続性を保つために、遊びや生活の内容を振り返り、次の日の活動に期待を持たせるために、帰りの会を子ども中心に進めることも多い。ある集団の遊びの内容を全クラスや全園児に広めるという目的も帰りの会にはある。

また、中島・大森（2016）は、帰りの会のなかでは、「保育者と子どもたちと一緒に楽しい時を過ごし、そのなかで子どもとの関係を作り、子ども同士の関係もつくっていくこと」を大切にしている一人の幼稚園教諭の例を掲げている。つまり、幼児と保育者の信頼関係と幼児同士の信頼関係の構築の場が帰りの会の意義であると理解している。

さらに、鈴木・岩立（2010）は、幼稚園の帰りの会で、幼児と保育者、幼児と他児のやりとりにおける言葉や仕草、表情を詳細に記録し、心情面も含めて考察した結果、幼児が「別れのあいさつ」のルーティーンを学んでいくダイナミックな変化の過程を明らかにした。それによれば、幼児は、個人の楽しさや自分の思いを表現するために幼稚園教諭の提示したルーティーンを破り、共に行動する楽しさによってルーティーンに戻っていることが明らかになった。こうしたルーティーンが確立されそれが壊されることで、幼児が成長する様を描いたとも看取できる。また、保育者は、挨拶のルーティーンを工夫し、子どもが自らルーティーンの実行を互いにうながすようになるように配慮していることを明らかにした。幼児が自発的にルーティーンを学んでいくうえで、子ども同士が影響しあい、保育者がかかわることが明確になった。しかも、そのやり取りの基盤として幼児と保育者との信頼関係が重要であると主張している。このように連続性の担保という意義と信頼関係構築の場という意義が帰りの会にある。

ところで、少しちがった視点から言えば、幼小接続教育の観点からも帰りの会は重要であるといえるだろう。周知のように、幼稚園教育要領(平成29年3月公示)ばかりではなく、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、ならびに、小学校学習指導要領(平成29年3月公示)では、幼児期から学童期にかけて、育みたい資質・能力の三つの柱が示されている。それらは、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」である。これらの育みたい三つの資質・能力は、幼稚園における園生活全体を通して育まれる。とりわけ、帰りの会においては、言語活動が行われたり、人間関係を学ぶ場になったり、幼児が自分を表現する機会になったり

と集約してそれらを総合的に学ぶ場面になる。そのため非常に重要な活動の時間である。換言すれば、言語能力や情報活用能力、問題発見や問題解決能力等の小学校以降の学習の基盤となる資質と能力を育成するための場であるため、帰りの会は幼小接続教育の観点からも重要なのである。

では、幼稚園教育活動で重要な帰りの会を保育者はどのように構成しているのであろうか。まず、その時間の長さであるが、請川・山口（2008）は、ビデオ撮影と半構造化インタビューで帰りの会のパターンを調査研究し、帰りの会が全体で 7 分から 8 分ほどであったことを明らかにしている。同じく請川滋大（2009）は、保育者対象の質問紙調査で帰りの会の時間の長さを調査しており、15.4 分という値を示している。加えて、3.4 歳児に比べ 5 歳児クラスの帰りの会のほうが時間が長くなることを示している。

また、その 15 分程度の帰りの会はどのような活動内容から構成されるのであろうか。上述のように本論文で設定した場面という視点から考察してみよう。

請川（2009）は『『帰りの会』で行う保育内容』を 11 項目掲げている。「決まった歌」、「何らかの歌」、「絵本」、「紙芝居」、「手遊び」、「ゲーム・クイズ」、「質問」、「振り返り」、「明日の活動」、「挨拶」、「身体接触」という分類である。分類項目の「挨拶」や「明日の活動」の項目が多いことを示している。本稿では、請川の質問紙調査を手掛かりとして 15 の場面に分類することにしたが、これについては後述する。

以上のように、帰りの会は重要な活動である。だが、先行研究では、帰りの会の実態を実証的に明らかにした論文は数少ない。また時期別の変化を実証的に検証した論文はない。そのため本論文で実証的な調査を実施し、分析したい。

2. 対象と方法

2-1 対象

調査対象は、東海地方の園児数約 200 名の私立 A 幼稚園の年少児・年中児・年長児それぞれ 3 クラス、合計 9 クラスである。各学年だけではなく、各クラスの比較検討も行うため、各学年 3 クラスがある大規模園であるこの A 幼稚園を調査対象とした。また、A 幼稚園では、毎日、全クラスでおおむね 14 時から 14 時 20 分の時間帯において 15 分から 20 分程度の帰りの会が行われている。それも調査対象とした理由である。

2-2 調査時期と回数

調査日程は 2019 年 5 月～6 月と 2019 年 11 月の 2 回である。第 1 回目の 5 月～6 月（以下では簡便にするため 5 月の調査と記す）では、幼児がまだ園生活に慣れていない時期であるため、この時期を選定した。11 月の調査は、幼児が園生活に慣れ、帰りの会のルーティーンが決定してきた時期であるためこの時期を選定した。5 月調査と比較検討するために、約 6 ヶ月の期間をおいて調査した。

第 1 回目は、2019 年 5 月 14 日に年少児 3 クラス、2019 年 5 月 21 日に年中児 3 クラス、2019 年 6 月 4 日に年長児 3 クラスの合計 9 クラスのデータを収集した。

第 2 回目は、2019 年 11 月 18 日に年少児 3 クラス、2019 年 11 月 19 日に年中児 3 クラス、2019 年 11 月 20 日に年長児 3 クラスの合計 9 クラスのデータを収集した。合計 18 回分の帰りの会のデータを収集し、調査対象とした。

2-3 事例収集の手続き

A 幼稚園で帰りの会が行われるおおむね 14 時から 14 時 20 分の時間帯において、保育室の後方にビデオカメラを設置し、学年ごとに 3 クラスずつ保育者と幼児の姿を撮影した。帰りの会の時間については園内ですべて統一されているため、全 9 クラスの帰りの会はほぼ同じ時間帯で行われていた。撮影したデータをもとに、保育者の場面構成の考察と分析を行った。

2-4 倫理的配慮

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

本研究の遂行にあたり、事前に調査協力園の園長ならびに幼稚園教諭に調査の目的・帰りの会を観察すること、および、帰りの会をビデオで撮影することを説明し、調査実施への承諾を得た。個人情報とプライバシーの保障については、幼稚園教諭と幼児が特定されないように配慮した。得られたデータは、調査終了後、速やかにかつ適切に消去することを伝えた。本研究論文の掲載後にすべて消去する。

2-5 分析方法

帰りの会は、いくつかの場面に分類できるため、保育の場面に即して分類枠を設定することにした。まず、予備調査として研究対象園を6回訪問し、それぞれ年少児・年中児・年長児の帰りの会を2回ずつ観察した。その観察の結果、および、請川（2009）の『『帰りの会』で行う保育内容』の用語を整理し、「ゲーム・クイズ」をA園での現状を踏まえて「なぞなぞ」にするなどした。また、姿勢指導や片付け指導、道徳的発話、カバンの移動を加えた。身体接触は場面とは考えられず、しかも他の項目に含めることができるため本論文では場面として設定しなかった。

各場面の分類項目名と撮影したデータをもとに、帰りの会を15場面に分類した。分類枠の場面の定義は以下の通りである。

- ① 振り返り
保育者や幼児が幼稚園での1日の出来事を振り返って話をする場面。その当日の活動だけではなく、以前の活動の内容も含む。
- ② 明日の予定
保育者や幼児が次の日の予定について話をする場面。幼児の予定だけでなく、保育者の予定についての話も含む。
- ③ 絵本の読み聞かせ
保育者が幼児に向けて絵本を読む場面。絵本を読んでいる場面だけでなく、絵本を読む前の会話や絵本の内容についての会話も含む。また、絵本だけでなく、紙芝居も含む。
- ④ 手遊び
保育者が主導し、幼児とともに手遊びをする場面。
- ⑤ 姿勢指導
保育者が幼児に対して、きちんとイスに座ったり、体操座りをしたり、姿勢を正すように指導する場面。
- ⑥ 片付け指導
保育者が幼児に対して、ロッカーの整理整頓や荷物の片付けについて指導する場面。
- ⑦ 言葉遊び
言葉に関する遊びをする場面。たとえば、「あ」から始まる言葉を探したり、ある幼児の名前の中に隠れている言葉を見つけたりする場面。
- ⑧ 道徳的発話
保育者が幼児に、幼稚園でのルールについてや他児の気持ちについてなどの道徳的な話をする場面。
- ⑨ なぞなぞ
保育者が幼児になぞなぞやクイズを出し、幼児が答える場面。
- ⑩ カバンの移動
幼児がカバンをロッカーや教室の外に移動させる場面。
- ⑪ 配布物
保育者が幼児に連絡帳を配る場面。
- ⑫ 行事の話

保育者や幼児が幼稚園で行われる行事についての話をする場面。上記②の明日の予定は、その翌日の内容であるが、行事の場合は、数日から数週間あとの行事の内容である。

⑬ 歌

保育者と幼児が歌を歌う場面。帰りの会の最後に歌う歌ではなく途中で歌う歌を下記の⑭の歌と区別するために、この場面項目を設定した。

⑭ 帰りの歌

帰りの会の最後に、保育者と幼児が帰りの歌を歌う場面。帰りの会の歌を歌った直後に短い挨拶が交わされるため、この場面は帰りの挨拶を含むものとする。

⑮ 帰りの挨拶

保育者と幼児が帰りのあいさつをする場面。上記⑭の「帰りの歌」が歌われなかったときに行われていた場面である。

分類にあたっては、ビデオを視聴して帰りの会における保育者の発話の内容の大枠をデータ化した。その際、子どもの発話内容や絵本の読み聞かせなど不要と思われる部分については逐語録を作成しなかった。だが、前後の内容から場面が想定できるようにした。その結果、【】内に示すような分類項目を仮に作成した。

2020 年度の岐阜大学教育学部家政教育講座（保育学研究室）の 4 年生 1 名を研究協力者として選出した。理由は、保育学を学んだ学生であるからである。そして 2019 年 12 月から 2020 年 2 月にかけて、この記録に基づき場面の分類について研究協力者とともに検討した。必要な場合にはビデオを参考にした。若干の議論はあったが場面の分類は 100%の一致率を見た。

帰りの会の場面の内容と保育者の発話を記録したデータ例を以下に示す。名前は子どもの愛称や保育者名を含めすべて仮名である。こうした記録を作成して場面を分析した。

帰りの会のデータ例 年少児 3

【配布物】

子：(中身が半分出ているティッシュを先生に向けている)

T：あつくん、それ、スモックのポケットしまっておいて！

T：キリンさん、連絡帳とシールお帳面、大事なことがたくさん書いてあります。いいですか？もらったらどうするんやった？

子：(かばんにいれる)

T：上手！すぐにポケットにしまいます。

【片付け】

子：(カバンの片付けをしていない)

T：あれ？おはなしきいとった？もう、できてる子いるよ！

【姿勢指導①】

T：おカバンみんなおいてきた？おいてきた子からお山座りだよ。1・2・3・・・10 (人形を目隠しして) もういいかい？

子：もういいよ！

T：まだかっこわるい子おるんやない？ ちょっと周り見てごらんよ。もうあと 10 だけ数えるよ。先生よりかっこいいお山座りみせて、いい？せーの、1・2・3・4・5…。子：(先生のそばにくる)

T：りつくん、かっこいいお山座りしてごらん。(目隠ししながら) もういいかい？

子：もういいよ！

T：いい？本当にいい？かっこいい？みんな もう一回かっこよく気をつけ、ピ！ 子：(ピシッと座る子もいる)

T：いくよ、みるよ、ジャジャジャジャジャジャジャン (目隠しの手を広げながら)

はなまるー (手をたたきながら) 子：(立ち歩いている)

T：こうくん。かっこいいお山座りしてごらん。はい、キリンさん、はなまるでした。(手をたたきながら) 子：(立って後ろに行こうとしている)

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

T：りっくん、先生の横でお山座りしとって。 子：(立ち歩いている)

T：せいくん、お山座りだよ！

T：あーあ、りっくんとはるくん残念。せっかく先生今日みんなのためにこのあと、イチゴ畑にするのに、りっくんたちのイチゴ畑つくれへんわ！

【振り返り】

T：はい、みんな今日何しましたか？

子：いちご。

T：ね。いちごのなにかいたの？ 子：(口々に言う)

T：そうそう。これ、つぶつぶかいたね。 子：(どこかに行こうとする)

T：りっくん、まだだよ、おいで、お山座りでかっこよく待つよ。

【明日の予定】

子：あ、ねえ、みて、りっくんが！

T：りっくんはもういいわ。明日の折り紙りっくんの分用意できへん、先生。(その子たちのもとに行って) かっこよく座ってきて。

子：りっくんが！

T：あつくんもだよ、あつくんどこにおんの？おいで！

T：ジャジャジャジャジャン、明日もね、折り紙遊びをします。ジャン！これなんだ？ 子：・・・

T：これは、トマト (小声で) サンドイッチを・・・トマトとか。 子：(ドアを開けて外に行こうとする)

T：ゆらちゃん、どこいくの？まだだよ。帰りの会だよ。ゆらちゃん、みおちゃん、まだです。戻ってきてください。みおちゃん (ドアを) しめて！

子 (みおちゃんがドアを閉める)

T：そうそうそう。はなまる一。かっこいい姿勢でお話聞いてごらん。こうちゃん上手！(話に戻って) これ、トマト。これはなんだ？

子：サラダ。

T：レタス、あとはね、あとはね、黄色の、サンドイッチに何入っとる？

子：たまご！

T：びんぽん！まひちゃん。たまごとか、あとはー？これは？

子：ハム！

T：そうそうそう。ハム トマトとハムとたまごとレタスをなんと、パンでえい！(はさむ) 何ができるの？これ、これなーんだ？

子：サンドイッチ

T：まる。(手で丸) サンドイッチを明日は…。 子：(立ち歩く2人のほうを気にしている)

T：たかちゃんいいよ。ありがとう。もう、みおちゃんたちは明日サンドイッチ作れません。今、かっこよく座っているお友達は、明日先生と一緒にサンドイッチを作ります。(かっこよく座っている子の数を数える) 12個でいいかな？2人の分はなしか？明日サンドイッチある子は・・・(数を数える)。みおちゃんとゆらちゃんはサンドイッチ明日食べませんか？

子：いやー

T：食べる子は座ってごらん。

子：サンドイッチ食べよ。

T：ね！サンドイッチ食べよって。ありがとう。ひろくんもサンドイッチ食べる子座ってお話聞いて

【姿勢指導②】

子：ぼく、おしっこ

T：おしっこ？いっといで 子：(机の上に乗っている)

T：机の上にはのりま・・・

子：せん

T: (うなづく) だめ

T: 佐藤先生の時に習ったのみんな覚えとる? セーの! お姉さんすーわり、ピ! 子: (お姉さん座りになる) 子: (立ち歩いて外に出る)

T: ゆらちゃん (その子を見て首を振る) (流れに戻って) いくよ、おやますーわり、ピ! 子: (お山座りになる)

T: あ、まだ先生のほうがはやいわ、みんな遅い。子: (いすを引きずっている)

T: はるくん、どうするの? イスは違うよ。(流れに戻って) おとうさんすーわり。ピ! 子: (お父さん座りになる)

T: 上手、そうくん上手、はなまる (頭をなでる) いくよ、赤ちゃんすーわり、ピ! 子: (赤ちゃん座りになる)

T: はやい! 先生より早くがんばってよ。セーの、お父さんすーわり、ピ! 子: (お父さん座りになる)

T: 間違えた (お山座りからお父さん座りになる)。みんなはなまる (てをたたく)。先生間違えた、みんなじょうずやったね。お山すーわり、ピ!

子: (お山座りになる)

T: こうちゃんはやい! たかちゃんはやい! はなまる。

【絵本の読み聞かせ】

子: (外にしようとする)

T: ゆらちゃん、みおちゃん、中はいつてよ

T: この鳥なんて鳴くか知ってる? コケコッコーって鳴くんだよ (手をつけて)

子: コケコッコー

T: そうそうそう

子: (机の上ののってジャンプをする)

T: 机の上のにりません、プブー。 危ないよ、これは本当にだめ。

【帰りの歌】

子: (外に出ようとする)

T: ゆらちゃん、みおちゃん (首を振る) 子: (じゃれあう)

T: 何してるの? はるくん、プブ

3. 結果と考察

3-1 5月の帰りの会の分類の結果と考察

2019 年 5 月のクラスごとの帰りの会の場面構成を、時系列で上から下に列挙した表を、表 1「学年・クラス別の場面の分類 (5 月)」に示す。この順に帰りの会が展開されているため同一日の比較対照ができる。なお、姿勢指導など、連続ではなく他の場面が間に入って 2 回あった場面については、姿勢指導 1、姿勢指導 2 と記している。

次に、帰りの会にどのような場面から構成されていたかについて、表 2「学年別の帰り会の場面件数 (5 月)」で示す。全 58 場面あった。このように、2019 年 5 月の帰りの会の場面数は、年少児 (25 件)・年中児 (18 件)・年長児 (15 件) と学年が上がるにつれて少なくなっている。つまり、学年が上がるほど 1 場面当たりの時間が長くなっていることがわかる。

学年が上がるほど 1 場面当たりの時間が長くなっている理由に関しては、幼児の語彙力や話す力の発達に関係していると考えられる。年長児の帰りの会の「振り返り」では、「今日楽しかったこと」について挙手をし、あてられた幼児がみんなの前で発表する形がとられていた。また、その内容について、作り方や遊び方など発展した内容の話も出ていた。幼児の年齢が上がるほど、幼児がたくさんの内容を話せるようになったり、保育者の話も聞けるようになったりする。また、幼児がたくさん話をするができるようになれば、保育者はもっと話を聞きたい、幼児に話をさせたいという思いになる。それによって、学年が上がるほど帰りの会の 1 場面当たりの時間が長くなると推察できる。

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

表1 学年・クラス別の場面の分類 (5月)

学年	年少			年中			年長		
クラス	年少1	年少2	年少3	年中1	年中2	年中3	年長1	年長2	年長3
場面	姿勢指導1	配布物	配布物	振り返り	姿勢指導	振り返り	振り返り	手遊び	手遊び
	配布物	カバンの移動	片付け指導	明日の予定	手遊び1	明日の予定	明日の予定	振り返り	絵本の読み聞かせ
	片付け指導	姿勢指導1	姿勢指導1	言葉遊び	絵本の読み聞かせ	言葉遊び	言葉遊び	絵本の読み聞かせ	振り返り
	姿勢指導2	手遊び	振り返り	歌	手遊び2	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせ	明日の予定	明日の予定
	明日の予定1	絵本の読み聞かせ	明日の予定	姿勢指導	振り返り	帰りの歌	帰りの歌	帰りの歌	帰りの歌
	絵本の読み聞かせ	姿勢指導2	姿勢指導2	帰りの歌	明日の予定				
	明日の予定2	振り返り	絵本の読み聞かせ		帰りの歌				
	帰りの歌	明日の予定	帰りの歌						
場面数	8	8	7	6	7	5	5	5	5
学年別 場面数	25			18			15		

学年全体で、しかもすべてのクラスで「明日の予定」場面がある。「絵本の読み聞かせ」は9クラス中8クラス、「振り返り」は9クラス中8クラスにおいて行われている。A幼稚園では、帰りの会において「明日の予定」「振り返り」「絵本の読み聞かせ」は頻繁に行われているといえる。

次に、学年（年少児・年中児・年長児）の違いをみていこう。姿勢指導が年少児で6回、年中児で2回、年長児で0回である。この姿勢指導は、A幼稚園で繰り返し行われている。特徴的なのは、年少児では「姿勢指導」を行っている場面が一番多いことである。上記の「帰りの会のデータ例」にも2回「姿勢指導」が登場するが、補足的にもう少し例を挙げておこう。

たとえば、「おカバンみんなおいてきた？ おいてきた子から、お山すわりだよ」「お山すわりですわります。54321…0。お山すわりがかっこいいのは（親指と人差し指をくっつけ、他の指も添えて手で望遠鏡を作って見渡す姿をみせて）、あ！○○ちゃんかっこいい！」と言ったり、個別に、「○○ちゃん、そんな座り方、先生ちょっといややなあ。お顔みえへんもん。もっと○○ちゃんのお顔見たいなあ」という指導をする場合がある。逆に、お山座りができている子どもには、「あ！（お山すわりが）かっこいい！かっこいいねえ」とほめることもある。年少児の5月の帰りの会では頻繁に登場する場面である。保育者が意識的に、幼児が帰りの会で集中する場面を作り出そうとしていることが看取できる。

年中児では、帰りの会の内容についてクラスによる違いがある。「言葉遊び」や「歌」を取り入れる場合もある。年長児では、「振り返り」「明日の予定」「絵本の読み聞かせ」が全てのクラスにおいて行われている。

配布物に関する場面は年少児ではあるが、年中児・年長児ではない。配布物を自分から取りに行くようになっているからである。道徳的発話は5月には見られない。

3-2 11月の帰りの会の分類の結果と考察

5月の帰りの会の場面構成の表と同様に、2019年11月の帰りの会の場面構成をクラスごとに表し

表2 学年別の帰り会の場面件数 (5月)

学年	年少	年中	年長	合計
場面				
振り返り	2	3	3	8
明日の予定	4	3	3	10
絵本の読み聞かせ	3	2	3	8
手遊び	1	3	2	6
姿勢指導	6	2	0	8
片付け指導	2	0	0	2
言葉遊び	0	1	1	2
道徳的発話	0	0	0	0
なぞなぞ	0	0	0	0
カバンの移動	1	0	0	1
配布物	3	0	0	3
行事の話	0	0	0	0
歌	0	1	0	1
帰りの歌	3	3	3	9
帰りの挨拶	0	0	0	0
学年別 場面数	25	18	15	58

たものを表 3 「学年・クラス別の帰りの会の場面件数（11 月）」に示す。また、場面数については表 4 「学年・クラス別の帰りの会の場面件数（11 月）」に示す。

表 3 学年・クラス別の帰りの会の場面件数（11 月）

学年	年少			年中			年長		
クラス	年少 1	年少 2	年少 3	年中 1	年中 2	年中 3	年長 1	年長 2	年長 3
場面	配布物	手遊び	片付け指導	振り返り	なぞなぞ	手遊び	振り返り	手遊び	手遊び
	振り返り	絵本の読み聞かせ	姿勢指導	明日の予定	手遊び	絵本の読み聞かせ	行事の話	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせ
	手遊び	振り返り	手遊び	歌	絵本の読み聞かせ	振り返り	明日の予定	姿勢指導	振り返り
	絵本の読み聞かせ	明日の予定	絵本の読み聞かせ	帰りの歌	姿勢指導	明日の予定	手遊び	振り返り	明日の予定
	明日の予定	帰りの歌	帰りの歌		振り返り	帰りの歌	絵本の読み聞かせ	道徳的発話	帰りの歌
	帰りの歌				明日の予定		帰りの挨拶	帰りの挨拶	
					道徳的発話				
					歌				
					帰りの歌				
場面数	6	5	5	4	9	5	6	6	5
学年別 場面数	16			18			17		

11 月の帰りの会の場面数の合計は多い順に、年中児（18 場面）・年長児（17 場面）・年少児（16 場面）、合計 51 場面となった。学年が上がるにつれて場面数は少なくなっていた 5 月とは異なり、どのクラスも 6 場面程度で構成されていることがわかる。年少児では、入園当初 5 月とは異なり、帰りの会の場面数が少なくなった。前述したように、5 月はとくに年少児において「姿勢指導」や「片付け指導」などがたくさん行われており、それが年少児の場面数を増加させることになった。その場面が見られなくなった。11 月は年少児の子どもたちにも落ち着きが見られるようになったため、保育者が各場面に注意する機会は減り、わざわざ場面という時間をとって指導しなくてもよくなったからであろう。

11 月において、「振り返り」と「絵本の読み聞かせ」は 9 クラス中 8 クラスにおいて行われている。5 月でも「振り返り」と「絵本の読み聞かせ」は 9 クラス中 8 クラスで行われている。全く同じである。11 月では、「明日の予定」は 9 クラス中 7 クラスにおいて行われていたが、5 月では「明日の予定」は 9 クラス中 9 クラスにおいて行われていた。

帰りの会の場面構成は 3 学年ともほとんど同じである。5 月の年少児は「姿勢指導」や「片付け指導」、「配布物」など、幼稚園で生活するための基礎的な生活の部分の指導が頻繁に見られた。しかし、11 月では年中児や年長児と同じような帰りの会の構成になっていた。繰り返すようだが、年少児の帰りの会の構成が年中児や年長児と同じになったことには、年少児が約 8 ヶ月間幼稚園で過ごしてきたことにより、園での生活に慣れてきたことや子どもたちに落ち着きが見られるようになったことが理由であろう。

このように、学年によって帰りの会の場面の内容に違いがある。当然のことながら発達段階が全く異なるからである。そのため、保育者は子どもの発達に合わせて、帰りの会を行っていることが上記の表 3 から看取できる。

帰りの会の場面としては同じだが、学年によって内容が異なることがある。「振り返り」の場面に注目してみよう。年少児クラスでは、保育者が「今日幼稚園で行ったこと」を子どもたちに尋ねて口々に答えさせているのに対して、年長児クラスでは、保育者が「今日幼稚園で楽しかったこと」を子どもたちに尋ねて一人一人発表させている。小学校の授業の発問と同様に、発問が繊細で微妙な違いがある。全員が口々に答える方法から、きちんと他児に聞き取れるように発表するなど幼児の答え方も異なってくる。今回はインタビュー調査を実施していないため保育者が意識的にこうした問いかけをしているか、また、答え方を念頭においているかどうかは不明である。だが、保育者は学年に応じて問いかけを繊細に工夫していることがわかる。また、年中児では、年少児のように「今日行ったこと」

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

を聞いているクラスもあれば、年長児のように「楽しかったこと」を聞いているクラスもある。問いかけ方が混在していた。年少児から年中児、そして、年長児になる段階のところだからであろう。また、年長児クラスでは5月と11月の場面の構成においては大きな違いは見られなかった。

年長児クラス担当の保育者は、11月の帰りの会では、子どもたちが静かに人の話を聞くことやしっかり体操座りをする、子ども自身が前に立った時には気をつけをした状態であることを徹底していた。また、全員がこの状態であることにもこだわっていた。そのため一人でもこれらのことができていないときには保育者は注意を促していた。小学校就学を控えて、姿勢を正す、気をつける、静かに話を聞くということを徹底していた。これは5月とは全く異なる姿であった。

4 全体的考察

合計 109 回の場面が得られた。学年別の帰りの会の5月と11月の比較を表5「学年別の帰りの会の場面の比較」で示す。表5には、場面ごとの構成比も記載した。

まず、5月11月の両方の帰りの会の場面で構成比の最も多いのは、第一位が「明日の予定」(15.7%)で、次いで、第二位に同率で、「絵本の読み聞かせ」「帰りの歌」(14.8%)である。第四位は「振り返り」(13.9%)、第5位は「手遊び」(13.0%)である。

先行研究でも確認したが、帰りの会の重要な目的の一つは保育の連続性の担保である。今日の活動の続きを明日もするという意識づけが必要な場合がある。遊びを深めるためにも、また生活をより充実させ発達区分にふさわしいものにするためにも、明日の活動内容を知ることが保育者の意識のなかにあると看取できる。つまり、保育の連続性を重要視しているために、「明日の予定」をあげることが多くなっていると考察できる。

その日の「振り返り」も多いことが明らかになった。年中児の3クラスでは、5月11月とも「振り返り」の直後に「明日の予定」場面がある。両者は関連性の高い場面であると言えるだろう。11月の年長1のクラスでは両場面の間に「行事の話」が、年長2のクラスでは「道徳的発話」が入っている。間に別の場面が入るとはいえ、年中児のクラスと同様に、「振り返り」のあとに「明日の予定」という順で場面が構成されている。このように、必ずといっていいほど「振り返り」の次に「明日の予定」という順で帰りの会の場面が構成されていることが明らかになった。

幼稚園教育要領解説（平成30（2018）年版）の序章の第2節1「幼児期の特性」においては、「幼稚園における生活の流れが把握できていないと、幼児は、今日の前で起きていることにとらわれ、やりたいことができないと泣く、怒るなどの情緒的な反応を示すことがある。幼稚園生活の中で、活動の区切りに教師や友達と共に振り返りの経験を積むことや教師が適切な言葉掛けをすることなどにより、幼児は徐々に過去と今、今と未来の関係に気付くようになり、活動の見通しや、期待がもてるようになっていく」（下線部は筆者）とある。このように、幼稚園生活の活動に区切りをつける帰りの会で、保育者や他児と共に振り返りの経験を積むことで、幼児は一日の生活の流れを把握し、活動の見通しがもてるようになる。今回の研究結果から、このことが如実に見て取れる。

表4 学年・クラス別の帰りの会の場面件数（11月）

学年 場面	年少	年中	年長	合計
振り返り	2	3	3	8
明日の予定	2	3	2	7
絵本の読み聞かせ	3	2	3	8
手遊び	3	2	3	8
姿勢指導	1	1	1	3
片付け指導	1	0	0	1
言葉遊び	0	0	0	0
道徳的発話	0	1	1	2
なぞなぞ	0	1	0	1
カバンの移動	0	0	0	0
配布物	1	0	0	1
行事の話	0	0	1	1
歌	0	2	0	2
帰りの歌	3	3	1	7
帰りの挨拶	0	0	2	2
学年別 場面数	16	18	17	51

次に、主として領域「言葉」および、領域「表現」にかかわる「絵本の読み聞かせ」と「帰りの歌」が同率であることも興味深い。「帰りの歌」と「歌」(2.8%)を合わせると 16.4%となり、最も多い場面となる。こちらも常識的ではあるが、帰りの会では言語活動と音楽活動が中心的な欠かせない要素であることが判明した。また、手遊びは、次の場面の集中を促すものであり、次の活動への注意喚起と導入として用いられていた。総じて、A幼稚園では、一日の振り返りが明日への期待につながるという視点があり、クラス全員で歌を歌ったり絵本を読んだりという点で集団としてのまとまりをつけるという視点があることが判明した。

ところで、古くは倉橋惣三(1976)が『幼稚園真諦』(初出は 1934)の「第三編 保育家庭の実際」の「十、おかえり」において、帰りの会について言及している。まずは倉橋の論を確認しておこう。

倉橋(1976)は『幼稚園真諦』で、「おかえり」については、「今までの時間とは違」うと述べ、「このときだけは、先生の考えを強く表わしていくべきではないか」と述べ、普通の活動よりも注意を払うべき活動であるとしている。つまり、保育者が主導することを前提としている。

また、「子供たちとしても、その日の一日の生活に正しく結末をつけてこそ、組が一つにまとめられ」と述べ、集団としてのまとまりを作る時間であると位置づけている。続けて、「ちゃんと整えられてこ

表 5 学年別の帰りの会の場面の比較

学年・時期 場面	年少 5月	年少 11月	年中 5月	年中 11月	年長 5月	年長 11月	合計	構成比 (%)
振り返り	2	2	3	3	3	3	16	13.9
明日の予定	4	2	3	3	3	2	17	15.7
絵本の読み聞かせ	3	3	2	2	3	3	16	14.8
手遊び	1	3	3	2	2	3	14	13.0
姿勢指導	6	1	2	1	0	1	11	10.1
片付け指導	2	1	0	0	0	0	3	2.8
言葉遊び	0	0	1	0	1	0	2	1.8
道徳的発話	0	0	0	1	0	1	2	1.8
なぞなぞ	0	0	0	1	0	0	1	1.0
カバンの移動	1	0	0	0	0	0	1	1.0
配布物	3	1	0	0	0	0	4	3.7
行事の話	0	0	0	0	0	1	1	1.0
歌	0	0	1	2	0	0	3	2.8
帰りの歌	3	3	3	3	3	1	16	14.8
帰りの挨拶	0	0	0	0	0	2	2	1.8
学年別場面数	25	16	18	18	15	17	109	100%

そ、先生や、友だちに別れる作法であり、また大事な子供たちを町へ手離す先生の心やり」であると述べ、別れの挨拶をする時間であるとしている。

さらに、「やわらかい気持ちで一日を思い出して、足ども静かにおもむろに帰らせる」ようにしたいものだと締めくくる。つまり、保育者が主導して、一日の集団生活に区切りをつけ、集団としてのまとまりを求め、しかも「その日一日の生活に正しく結末をつけて」「先生や、友だちに別れる作法」が帰りの会だとしている。

秋田喜代美(2011)も、「互いに受け入れ合い語り合う中で一体感を醸し、(中略)そうした時間が、より高次のくらしを営む子供たちへの礎となる」と述べる。秋田は、帰りの会を、「今日の遊びを子どもなりに振り返り、そしてそこから明日の遊びへの期待を生み出していく時間」としても位置づけることが重要であるとしている。このように秋田は、クラスの幼児同士、また幼児と保育者の語り合いの場としての意義を帰りの会に見出している。そして秋田も倉橋と同様に、集団生活のまとまりと区切りという帰りの会の存在意義をとらえている。

倉橋も秋田も認める帰りの会のこうした意義がA幼稚園にも随所に見られた。まずは、保育者が主導して園での生活に区切りをつけていた。A幼稚園での帰りの会は、やや厳しい姿勢指導や手遊びによる集中を促すなど、様々な場面から構成されていた。保育者が場面の切り替えでけじめや区切りを

幼稚園の帰りの会における場面の構成に関する実証的研究

意識したり、集団としての意識を育てたりする場面もあることが看取できるだろう。また、秋田の言う「一体感を醸す雰囲気」やクラスとしての「まとまり」は、A幼稚園でも帰りの会の土台となっていた。当然のことながら、振り返りを終わり、帰りの挨拶をするなかで、「やわらかい気持ちで一日を思い出して、足どりも静かにおもむろに帰らせる」指導があった。

総じて、帰りの会という保育場面には、第一に、園でのくらしにけじめをつける役割がある。第二に、集団の一体感を感じさせる役割も果たしている。第三に、その日一日を振り返り、明日への活動に期待を持たせる役割といった側面がある。本研究においては、このような帰りの会に見いだされる意義が実証的に明らかにされ、検証することができたといえよう。

残念ながら、今回は、保育者に帰りの会の場面構成の意図をインタビューで尋ねる機会がなかった。保育者の帰りの会に関する意識調査を行えば、帰りの会に関する研究をより一層深化させることができると考える。経験年数による違いもあるかもしれない。それを実証することも今後の課題である。また、3月の時点での帰りの会の在り方も検討できなかった。経時的な帰りの会の変化を検証することも一つの課題となる。今後、質問紙法やインタビュー等で、帰りの会を構成する保育者の意図を広く探るとともに、3月時点の変化も検討したい。また、保育者の経験によって差異が生じるのかについても調査したい。さらに、A幼稚園に限らず他の幼稚園、あるいは保育所等の帰りの会も検討してみたい。今後、あらゆる就学前教育機関における帰りの会がますます充実し、幼児が遊びでも生活面でも「昨日の続き」ができ、集団としてのまとまりを感じられるようになることを願っている。

<謝辞>

研究に協力いただきましたA幼稚園の先生がたに厚く御礼申し上げます。

<引用文献>

- ・秋田喜代美（2011）帰りの会の振り返りとけじめ. 幼児の教育 110(6), 60-63.
- ・請川滋大・山口宗兼（2008）幼稚園における「帰りの会」の研究：「帰りの会」の構造分析の試み. 日本女子大学紀要（家政），55，31-39.
- ・請川滋大（2009）幼稚園における「帰りの会」の研究Ⅱ：幼稚園教諭に対する質問紙調査から. 日本女子大学紀要（家政），56，23-33.
- ・倉橋惣三（1976）フレーベル新書10 幼稚園真諦. フレーベル館，128-130.
- ・鈴木幸子・岩立京子（2010）幼稚園の帰りのあいさつ場面におけるルーティーン生成の過程：3歳児の分析から. 保育学研究 48(2)，180-191.
- ・中島寿子・大森洋子（2016）保育者は「帰りの集まり」をどのように構想するのか. 山口大学教育学部，教育実践総合センター研究紀要，42，89-98.
- ・三吉愛子（2018）我が国の幼稚園における「会集」の歴史：東京女子師範学校附属幼稚園を中心に. 広島国際大学総合教育センター紀要，3，43-52.
- ・文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説（平成30年3月版）. フレーベル館，11.
- ・横山文樹（2010）幼児にとって「集まる」ことの意味—幼稚園の「お帰り」からの考察—. 学苑・初等教育学科紀要，836，33-44.